

	<p>2023年 8月1日 第157号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会事務局</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 <a href="http://mizumidori2.eco.coocan.jp">http://mizumidori2.eco.coocan.jp</a> E-mail : <a href="mailto:mizumidori@nifty.com">mizumidori@nifty.com</a> 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 090-1423-9894</p>
---	---

## おもしろ観察記録



「なに？ これ」 赤塚城址のテーブルの縁にずらっと並んだニイニイゼミとアブラゼミの抜け殻。まさか「みんなで一緒に羽化しようね」と約束して地上に出てきたのではないでしょう？。野外アートの傑作ですね。作者は誰？。7月15日撮影。



### ゴルフボールみたいなキノコ

大きさも表面の凸凹も下の台もそれらしい。7月9日撮影。

山田さんが数日後、ゴルフボールと並べて写真を撮ろうと行ってみたら、キノコはなくなっていたそうです。

キノコはみるみる成長したり、消えてしまったりするようですね。

## 夏休み親子で観察会

# 赤塚城址バッタ広場の生き物調べ

バッタ広場の生き物をみんなで採集し、みんなで観察してから元の場所に返します。生き物に詳しい方のサポート歓迎です。

8月26日（土）10時から11時

申し込みはメールでお願いします いたばし水と緑の会 坂本 [mizumidori@nifty.com](mailto:mizumidori@nifty.com)

## 日暮台公園付近の30年位前の風景

私が前野町5丁目に住み始めたのは昭和61（1986）年です。37年前になります。その頃自宅から、日暮台公園に行く道は毎日犬の散歩コースでした。近くには空き地、畑もかなりありました。空き地には草が生えて、畑にはサツマイモやトウモロコシなどを作っていたように思います。畑の縁にはいろいろな草、特に秋にはススキやハギなどもあり畑の持ち主の藁葺き屋根の自宅もありホオノキ？があつて春には白い大きな花が咲き香りが漂い楽しんでいました。ササが生垣になり、滅多に咲かないササの花を見たことを思い出します。その畑の跡は、有料老人ホーム、グループホーム、住宅と今は大きなマンションが建っています。畑の前は道路を挟んで小高い丘になっていてササが生い茂り、たくさんの低木も生えていて日暮台公園との間の道路は桜並木でした。その小高い丘に我が家の犬が逃げ込んで困ったこともありました。現在は特別養護老人ホームみどりの苑になっています。

日暮台公園にはその頃エノキ、イヌシデ、コナラ、キリ、ミズキなどが茂り東屋も建っていました。公園からは井出川の上にてきた緑道と、その後ろに中台の崖線樹林帯がつながり、中台2丁目公園まで見通せる緑豊かな場所でした。その頃の日暮台公園はエノキやコナラ、イヌシデなども今ほど大きくなかったように思います。落葉する木が多かったため落ち葉の季節は葉が降り注ぎ静かな早朝などは落ち葉が下にある枯れ葉にぶつかる「カサツ」という音が聞こえて感動したものでした。

1990年から2000年にかけての斜面の写真は残念ながらありません。2000年に撮影した写真（次頁上、斜面林の南端（マンション側）、2010年に同じ場所で撮影した時の写真（次頁中）が、古い写真の記録になります。（いたばし水と緑の会の会報110号（2015年9月15日発行）。2000年の写真は区内のベイトラップによる昆虫調査時に撮影したもので、それなりにササも生えて落ち葉が溜まっていますが、中の2010年の写真ではササがなくなり落ち葉がなくなり乾燥した地面が剥き出しになっています。

2010年には南部公園事務所所長に林内の下草刈りをやめていただきたいとお願いしましたが、担当者の考え方もいろいろで、程度の差はあっても下草刈りは続けました。

瀬田政江

2000年撮影



2017年、斜面林の高木（クヌギ、コナラ、イヌシデ、イヌザクラ）

10本を伐採しました。

通常なら高木が伐採され、地面に光が差し込むと、木の子供達が生えてきて、子供たちが次世代の樹林をつくっていきます。だから木の子供たちを切ってはダメなのです。茂ってぼさぼさになっているのは、子供たちが競争しているからです。そして競争して強い木が大きくなるはずです。

2010年撮影



写真下は2023年4月に同じ場所で、やや下側から撮影したものです。大木が切られた後、若い木が育っているのが見えます。大木が切られ明るくなった林で子供の木がもっとぐんぐん育っているはずが・・・定期的に刈りはらい機で刈られるので、地表面は裸地が目立ちます。

## 私たちは崖線樹林地をずっと観察してきました

古い話ですが、2006年ごろ有志で区内の崖線樹林地の観察会を行いました。そのとき多くの急斜面にある板橋区の公園樹林地が、頻繁に下刈りされていて、「このままでははげ山になり、不安定な斜面になってしまう」という危機感を持ち、いたばし水と緑の会の有志で成増4丁目緑地の調査を実施しました（2009年5月～2010年12月毎月実施）。一定の調査区域を決めて、生えている樹木（高木と低木）と野草の調査をし、地盤の様子を観察しました。そして、管理作業の影響をひしひしと感じました。また森林総合研究所の一条克也さんを講師に観察会をし、指導の下に成増4丁目緑地で樹木の「樹高／胸高直径」調査をし、危険なほど高木化していないということもわかりました。私たちは区長あてに、調査の結果とともに、樹林地の下刈りを抑制していただきたいこと、専門家を交えてきちんとした樹林地管理方針を策定していただきたいという内容の要望書を提出しました（2012年7月）。

その後、近所の崖線樹林地である日暮台公園にフィールドを移し、毎月観察を行っています。この林縁では5月にはキンラン、ギンラン、ナルコユリが咲き夏にはキツネノカミソリも多く咲き、カマキリ、ゴマダラチョウ、ヒカゲチョウ、ニホントカゲ、シデムシなど様々な虫も多数いる貴重な場所です。

私たちは、行政が公園のカルテをつくり樹林地管理方針により、安全で自然豊かな斜面林が維持されることを願ってきました。が・・・8月から大掛かりな金属杭による地盤保護工事がはじまります。森が再生しつつある場所の若い木は切られると思います。自然の樹木の根を生かすよりも、土木工事による金属杭の方が安心だということなのでしょうか（瀬田政江、坂本郁子）。

## 「脱皮について」

これから書くことは、私個人の考えです。

まず、人間も受精卵から幼体となり、お母さんのお腹の中でへその緒をとおして栄養と酸素をもらっています。出産と同時に肺呼吸となります。これが一次脱皮なのではないでしょうか、トンボも同じように、ヤゴの幼虫時代は、水中でえら呼吸で、最終脱皮のトンボになったときは、えらは使わないで呼吸をしています。

昆虫における脱皮とは、自分が成長するために、小さくなった自分の皮を脱ぐ動作です。

卵から孵化する時が、一次脱皮ではないでしょうか。幼虫となってから2～5、6回の脱皮を繰り返して成虫になります。

人間の二次的脱皮として、乳歯から大人の歯に抜け代わります。人間は、人生80年以上の時代を迎えて、成長の時間は、ゆっくりと進んでいきますが、一方、昆虫の寿命と言えは1日から長くても数ヶ月が多いのではないのでしょうか、そんな昆虫は、じっくりと成長してはいられません、外敵がいくらでもいるし、のんびり暮らすなんてことはないでしょう、常に生と死の間で、日々過ごすのだ。そこで、脱皮は、成長の過程を短縮をする一つの生き方ではないでしょうか、それと同時に自分の子孫を残すための、生殖能力を、脱皮する度に、何らかのホルモンを濃縮させて、最終脱皮をしているのではないのでしょうか。

単なる、おじいさんの独り言として、お読み下さい（山田元一郎）。

# 松葉づえで観察した近所の緑

6月6日に骨折して、リハビリに通院するほかは自宅にこもり、座っているしかありませんでした。10日後「歩きなさい」という指示があり、6月19日、固いギブスが当って痛い足を引きずりゆっくりゆっくり散歩をはじめました。今年初めて見た夾竹桃の花のきれいなこと、ゆっくり、ゆっくり歩くと、たくさんの生き物たちが目に入ってきました。これは約1か月間のご近所散歩の記録です。

私が住んでいるのは中台2丁目の高層の住宅団地（サンシティ）です。ここは村上和夫さんのレポートによると、敷地面積 97,103 m<sup>2</sup>のうち、46.3%が緑地だそうです。武蔵野崖線の北端にあたり、元の自然（樹林）が残っているところもありますが、住民が新たに植樹し、維持管理してきた森です。育てた木が大きくなり、木を切ったり若い木を植えたり、林内にヒガンバナや野草を植栽し、下草を刈るなどの手入れがされた人工的につくられた森です。急ぐ身でなし、松葉杖で木陰の下をゆっくり歩くのは、ぜいたくな時間でした（左下が団地内の緑）。



最初は足元ばかり見ていました。舗装された歩道にころがっている甲虫（コガネムシなど）の仲間が目に入る。クロコガネ多、カナブン多、シロテンハナムグリ、ナガチャコガネ？、コクワガタ、コメツキムシ、キマワリ等。7月中頃からアオドウガネ、コフキコガネ。歩道のブロックの隙間のアリの巣穴があります。巣穴の周りに土が掘り出され、死んだ虫に集まっていたり、アリたちは忙しそう。

7月に入ってアベリアの白い花の香りが漂うころ、オオスカシバ、クロアゲハ、ハチなどが蜜を求めてやってきました。

コナラの幹にカナブンがいっぱい。ちょっと数えてみたら30匹以上。少し離れたコナラの根元（写真右）にカナブンがうじゃうじゃいて、あたりのコナラの木にもカナブンがたくさん止まっています。



林内には、落ち葉や剪定枝のチップなどが堆積しています。カナブンの幼虫は腐葉土を食べると書いてあったので、このあたりでカナブンが発生したのではないかと想像しました。このコナラの根元の樹液を毎日観察します。いつもカナブンがいっぱい集まっています。気が付いたら地面にカナブンの死骸もたくさん散らばっていました。そしてカブトムシがきました。樹液に2匹、死骸が3匹(写真右上)。カブトムシの死骸はすぐにバラバラ、粉々に。



サンシティに隣接するならのき公園(左)はコナラが多く、クヌギ、イヌシデが生える雑木林? (斜面林)です。樹液の出ているコナラには、カナブンもいましたが、地面は草も落ち葉もなく、ここではカナブンが卵を産む場所がありませんね。

タマムシの死骸1と羽4枚を見つけました。1か月の散歩中に5匹です。飛んでいるときに襲われるの

か、羽だけ落ちていることが多い。

## 見かけた虫の中から



左：アカボシゴマダラ(外来種、ほかに在来種のゴマダラチョウの羽もあった。幼虫はエノキの葉を食べます。

中：オオミズアオの幼虫(4匹)。オオミズアオは薄い緑色から白っぽい色の大きなとてもきれいな蛾です。

右：足の長い大きな芋虫でちょっとぎょっとします。シャチホコガの幼虫。

虫たちは長い幼虫の時期を土の中や木の幹などで過ごして、成虫になって地上に飛び立つと、すぐに死んでしまうように見えます。というか「交尾して卵を産んだら人生が終わり」なのかもしれません。地面に転がっている甲虫は外傷もなく、踏まれて潰れているけれど、かじられたあともありません。そこへムクドリがちょんちょん歩きながら虫の死骸を食べ、アリが群がったりもします。こうして虫たちはまた自然にかえっていくのですね。

8月にセミの勉強会をやる予定なので、セミも気になりました。6月30日にミンミンゼミの鳴き声を聞きました。7月中旬過ぎるとセミの声が賑やかです。何年も地中で過ごし地表に出てきたばかりなのにもう死んでしまったセミ、うまく羽化できなかったセミ、死んだ幼虫、これから羽化するらしい幼虫、アリたちが群がっています。

普通の虫たちが、私たちのそばで普通に暮らしていることにちょっと安心しました。

## 木の恩恵を感じます

さて、虫の話ばかりではうんざり、かもしれません。

この暑苦しい夏、大きく枝を広げた木の涼しさは最高です。もうかなり以前ですが、私たちは赤塚公園で「樹木の働きを学ぶ」という勉強会をしました（講師：三島次郎先生）。1本1本の木の幹周りを測り、(木の種類によって異なりますが)幹の太さから計算式で木の葉の総面積を算出し、葉の二酸化炭素吸収量と蒸散による大気の冷却熱量を計算しました。木はただの日よけではなく、エアコン何台分もの働きをしていることを学びました。

私たちがもたらした温暖化の弊害を緩和してくれる樹木の恵み、公園や敷地内の身近な木を大切にしたいと思います（坂本郁子）。



## トンボ池のよ うすとこれか らのこと

水がいっぱいですが、冬に泥さらえをしたのが効いたのか、7月末までプランクトンの発生（黄色い油膜がでる）はありませんでした。

昨年小ノ澤さんが頑張ってザリ

ガニ駆除されたので、ザリガニ数は激減しましたが、またぞろ出てきているようです。

オオシオカラトンボが盛んに縄張り争いをしています。

フェンス際（看板のそば）のタコノアシの花が咲いています。今年は20株ほどあります。

花はタコの足そっくりです。

暑くてちょっとめげそうですが、繁茂した水草の刈り取りにかかります。

# 活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田 090-1423-9894  
坂本 090-4618-1295

## 1 赤塚城址ビオトープちょっと観察と手入れ（第2日曜日）

赤塚城址周辺は自然が豊かなところです。生き物達の環境を守る活動を体験しませんか。草や土に触って自然を感じてね。生きものは観察したら元いたところに返します。ササ刈り等の作業もやります（カマは用意します）。

8月13日（日）10:00～11:30

9月10日（日）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：汚れてもよい靴と服装・作業手袋（軍手）、あれば図鑑、虫眼鏡など、

## 2 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ（第4土曜日）

9月23日（土）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

雨天の場合は中止（または翌日） 問い合わせは：事務局まで

汚れてもよい靴と服装で。作業手袋、

## 3 日暮台公園と樹林地の観察（第1土曜日） 日暮台公園前集合

8月6日（日）10:00～11:30

9月3日（日）10:00～11:30

10月1日（日）10:00～11:30

## 4 バッタ広場の生き物調べ

8月26日（土）10:00～11:30

集合場所 区立美術館前

### ●ビオトープボランティア大歓迎

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があって楽しいですよ。ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。

●身近な自然情報やご意見などをお寄せ下さい。